

卒業生のいま



東近江市立八日市南小学校 教諭 ^{しまもと} 島本 まりこさん

■ Profile 滋賀県甲賀市出身。滋賀県立水口東高校から滋賀大学へ。平成24年3月、滋賀大学教育学部教員養成課程数教育コース卒業。同年4月に甲賀市立甲南中部小学校に赴任。同28年4月から東近江市立八日市南小学校へ。高校時代、数学の先生から多大な影響を受ける。滋賀大学時代はバスケットボール部で活躍。7年間、共に切磋琢磨しながら交際してきた大学時代の同級生と結婚する予定。

多くの友人たちに恵まれて切磋琢磨した学生時代 これまでも、そしてこれからも滋賀大学は大切な場所

■ 滋賀で教師をするなら滋賀大学へ

小学6年生の時、マザー・テレサの本を読んで感想文を書き、全国読書感想文コンクールで2位になりました。それがきっかけでマザー・テレサの家で働きたいという願望を持っていましたが、高校時代、尊敬する数学の先生の勧めで、滋賀大学を志すようになりました。

とても厳しい先生でしたが、指導のおかげで人が変わったように勉強に励むようになり、教師ってなんて素晴らしいんだろうと感動したのです。

出会う前は京都教育大学志望でしたが、その先生がおっしゃった「滋賀県で育ったのだから、滋賀大学でたくさんの仲間と共に勉強したほうがいい」という言葉に惹かれ、滋賀大学を受験しました。

■ マザー・テレサの家で決意した教師への道

滋賀大学では、素晴らしい仲間たちや先生方に恵まれました。当時は夜間でも自由に構内に入出入りできたので、夜、みんな



で集まって討論をするなど、常に彼らと共に切磋琢磨しながら過ごした4年間でした。

一人暮らしだったので家庭教師をはじめ10個以上バイトをかけ持ちしており、とても忙しい日々でしたが、毎日がとても充実していました。

2回生の時にはインドへ。憧れのマザー・テレサの家で、1カ月ほどボランティアをしました。この時の私は進路に迷いがありました。そこで、壁に貼られた言葉「あなたはなぜ、ここに来たのですか？あなたがしたいことはふだんあなたが暮らす場所ではできないことなのですか？」という意味を読んで、ハッとしました。

「私は滋賀で、教師として頑張ろう」と、心に決めたのです。

■ 多くの出会いと経験が自分を育てる

教師になって5年目、今年は6年生の担任をしています。子どもたちの素直な笑顔に触れ、共に達成感を味わえた時、教師になって本当によかったと思います。教師としての姿勢で心がけているのは、どんな状況でも正面から子どもたちに向き合うこと。

学生時代は多くの出会いがあり、多様な価値観を知ることのできる貴重な時間。勉強や部活だけでなく、ぜひ、いろいろな経験をしてほしいですね。それがきっと将来の自分に生きてくると思うので…。



株式会社 Silent Voice ^{おなかともや} 尾中 友哉さん

■ Profile

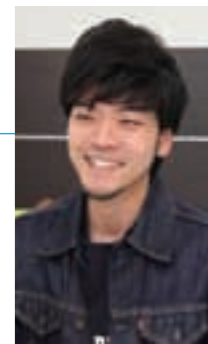
滋賀県大津市出身。(株)Silent Voice代表取締役。平成24年3月、滋賀大学経済学部経営学科を卒業後、東京の広告代理店に2年間勤務。平成26年2月、大阪で「Silent Voice」を立ち上げる。同年11月、大阪NPOセンター主催のソーシャルビジネスプランコンペでグランプリ受賞。同28年、(株)Silent Voiceとして法人登記。聴覚障がい者の能力をいかした研修事業をビジネスとして本格化。同29年1月、NPO法人Silent Voice発足。



株式会社 Silent Voice ^{さくらい なつき} 桜井 夏輝さん

■ Profile

愛知県出身。(株)Silent Voice取締役。幼少期をシンガポールで過ごす。平成26年3月、滋賀大学経済学部企業経営学科卒業。大手企業に内定していたが、尾中さんに誘われて「Silent Voice」に参画。聴覚障がい者の強みをいかした企業研修「ゼロパーバルコミュニケーションDIVE」を企画・実施。



家庭環境の異なる2人が滋賀大学で出会い ともに聴覚障がい者が活躍できる理想の社会をめざす

■ 実体験から生まれた「Silent Voice」

滋賀大学卒業後、東京の広告代理店に就職した私は仕事に忙殺され、自分を見失いかけていました。そんな時、ある先輩に相談したところ、「自分にしかできないことを見つけるしかないよ」と言われたのです。それは両親が聴覚障がい者という、一般家庭とは異なる環境で育った自分の原点に戻ることだと思いました。

物心ついた時から両親と手話で会話していた私は、言葉を交わさなくてもコミュニケーションは可能なこと、耳が聞こえない聴覚障がい者は見る力や第六感に優れ、表情や態度は本音や気持ちを物語ることを知っていました。私は聴覚障がい者はずっとその力を発揮できるはずだと考えたのです。

企業名である「Silent Voice」とは「音のない声」。同時に、社会に顕在化していない聴覚障がい者の能力を表す言葉です。

■ 遊びながら学べ 学びながら遊べ

学生時代は「滋賀大学陵水新聞会」(通称新聞部)で部長を務め、また、アルティメットサークル「彦根キャスルズ」を立ち上げるなど、自ら進んで他者に働きかけることで得たものは大きかったと思います。桜井君との出会いも新聞部、同じゼミでした。宮西先生がおっしゃった「遊びながら学べ 学びながら遊べ」という言葉は、私の人生の指針です。

■ 大学時代を自分らしく生きるきっかけに

高校生までは大体の人が同じような行動を取るようになってきます。その中で少し受け身になってしまうこともあるでしょう。しかし、大学では「自分次第」のことが圧倒的に増えるのです。大学の自由な風に吹かれて、自分の感性の向くままに、だからこそエネルギーに過すのが大学だと思います。社会はもっと「自分次第」です。大学をその自由さを、周囲に感謝しつつ、自分らしく生きていく良いきっかけにしてほしいです。

■ 外国人向けに京都の情報を発信

滋賀大学は第一志望ではありませんでしたが、彦根キャンパスで学ぶうち、その質実剛健さと環境の良さに惹かれていきました。授業内容も充実していましたね。

大学時代は課外活動にも注力し、他大学の学生と一緒に実家のある京都の四条烏丸に外国人向けの観光案内所を作り、京都の情報発信を行っていました。

内定先に断わりを入れてまで「Silent Voice」に参画したのは、尾中さんの提案がとても魅力的で、普通に就職するよりおもしろい人生が歩めると思ったからです。

■ 聴覚障がい者の友人に出会って得られた気づき

「Silent Voice」に参画することで聴覚障がい者の友達ができ、彼らから多くの学びや気づきをもらいました。「ゼロパーバルコミュニケーションDIVE」は、その気づきから生まれたものです。意図的に無音かつ文字のない世界を創りだし、様々なゲームやワークショップを行うなかで、参加者に様々な気づきを与えることが目的です。

DIVEは研修(=見知らぬ海のような世界)へのダイビングという意味以外に、自分の心の中にダイビングすることで知らない自分に気づくこと、また、ダイバーシティに対応した企業にこの研修を届けたいという願いが込められています。

■ 学習内容がアウトプットできる環境を

平成28年12月、滋賀大学の「対人関係構築力を身に付ける」の講義でDIVEを実施。24名の学生が参加してくれて、とても嬉しかったですね。学んだ内容を部活や課外活動などを通してアウトプットできる学習環境があると、授業のありがたみや必要性がもっと理解できると思います。私も今だから言えます。あの時学んだことを、今こそ学びたいと……(笑)。